

# \* 関 勝 則 「時代を映した横浜の歌」 探訪。

## 《19》 ダウン・タウン・ブギウギ・バンドの 「港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」

ベトナム戦争が終結した1975(昭和50)年、第二次ベビーブームの最中。紅茶キノコがブームになり、使い捨てライターや家庭用カセットVTRが発売された年でもあります。この年のヒット曲は「昭和枯れすすき」(さくらと一郎)、「シクラメンのかほり」(布施明)、「時の過ぎゆくままに」(沢田研二)、「心のこり」(細川たかし)、「22才の別れ」(風)、「我が良き友よ」(かまやつひろし)などとともにヒットしたのがダウン・タウン・ブギウギ・バンドの「港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」です。

宇崎竜童を中心とするロックバンドのダウン・タウン・ブギウギ・バンドは、この2年前に「知らず知らずのうちに」でデビュー。その後「スモーキング・ブギ」が大ヒットし、次もブギものということで、A面に「カッコマンブギ」B面に「港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」で発売しましたがB面の人気は急上昇し、1か月後にA・B面入替えての発売となりました。



曲の大半がセリフで構成され、歌う部分は「♪港のヨーコ・ヨコハマ・ヨコスカ」だけ。「アンタあの娘の何んなのさ!」はこの年の流行語にもなりました。

作曲は宇崎竜童、作詞は鶴見区で生まれ育ち、この曲が作家デビューとなる宇崎竜童の妻の阿木燿子です。ヨーコという名の娘を横浜・横須賀で捜す男に対して、ヨーコと接点を持った人物たちの証言をそのままセリフにしたという設定が斬新でした。宇崎竜童は、作曲に取りかかったものの、歌い出しの「一寸前なら憶えちゃいるが…」の部分でメロディーが、どうしても植木等のスーダラ節と似てしまい、そこで語りでつなぎ最後に歌に仕上げたそうです。

その年に阿木燿子の原案で映画化。横浜・横須賀を渡り歩く姉のヨーコに母の死を告げるために捜しまわる妹を描いていますが、ヨーコは画面に登場しない幻の女。ラストシーンは大さん橋、港を出て行く船にはヨーコらしい子猫を抱いた娘。遠去かる船の汽笛、ヨーコの気持ちを伝えるように悲しく鳴り響くというもので、当時「歌の世界を映像化した」として話題になりました。



## 帆船日本丸の化粧直し

### 20年ぶりのドライドックを視察

昭和5年(1930)に建造された帆船日本丸は、練習帆船として長い間、海洋国家日本の人材育成に大きく寄与してきました。昭和60年からは旧三菱重工横浜造船所(旧横浜船渠 第一号ドック)に係留され、みなとまち横浜のシンボルとして市民をはじめ横浜を訪れる観光客等に親しまれています。平成29年に国から重要文化財(美術工芸品として)に指定されたことを受け、帆船日本丸を良好な状態で永く保存・活用するための取り組みが進められています。



1月8日、大規模修繕を進めるためにドックの水を全て排水した状態(ドライドック)での帆船日本丸を視察し、作業の流れ等を港湾局から聴取しました。排水はドックの壁に急激に大きな圧力がかからないよう観測しながらドック内の海水(約5万m<sup>3</sup>)をポンプでくみ上げて行われました。この時、浮いている状態の船体をドックの底部にある盤木に正確に乗せるため、ダイバーによって船底のキールと盤木の位置を確認しながら作業を進めています。船体が海中から現われた後は、まず高所作業車や仮設の足場から附着したフジツボや海藻、船体の錆などを高圧洗浄し取り除きます。次に、外板の板厚を計測し、摩耗や腐食が進んでいる箇所当て板を溶接するなど船体を補修し、下地処理後に塗装を行います。そして、全工程終了後にドックゲートの注水弁を開放し、船体のバランスを確認しながら浮上させ元の位置に係留します。ドック内への注水には2日ほどかかると伺いました。工期は3月29日までを予定しているとのこと。

隣接の横浜みなと博物館では工期に合わせて企画展「横浜船渠ドック物語」が開催されています(2月2日〜3月24日)。みなとみらい地区には2基の石造ドックが現存していますが、帆船日本丸が係留されている第一号ドックは明治31年(1898)に竣工され、国の重要文化財にも指定されています。同時期に竣工した第二号ドックも屋外広場ドックヤードガーデンとして整備され、プロジェクトシンマッピングなど様々なイベントで活用されています。こうした機会を捉え、横浜港が日本を代表する国際港都としての第一歩を踏み出した歴史に学び、今後の市政発展に繋げてまいります。